

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年7月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2022年7月8日～7月29日
- 調査対象 200社
- 回答企業 124社
- 回収率 62.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の7月の状況を見ると業況DIは、前月より1.2ポイント改善の▲22.8となった。

2017年9月以来59ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲26.8、当月と比べ4.0ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2022年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2022年8月～ 2022年10月
業況	▲35.4	▲28.1	▲24.4	▲24.8	▲24.0	▲22.8	▲26.8
売上	▲26.8	▲15.9	▲17.4	▲6.2	0.9	▲0.8	▲4.8
採算	▲33.9	▲29.8	▲29.1	▲24.8	▲21.5	▲22.8	▲25.2
仕入単価	▲68.5	▲74.2	▲78.7	▲76.7	▲79.3	▲74.8	▲69.1
販売単価	14.2	18.2	22.0	26.3	30.6	35.7	25.2
従業員	21.3	28.1	25.2	34.1	30.6	28.4	31.7
資金繰り	▲22.0	▲18.2	▲15.7	▲11.6	▲15.7	▲15.5	▲12.9

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2022年8月～ 2022年10月
建設	▲35.7	▲34.5	▲27.6	▲46.7	▲38.0	▲48.1	▲33.3
製造	▲23.3	▲6.9	▲22.6	▲20.0	▲25.0	▲13.3	▲26.7
卸売	▲35.7	▲30.0	▲28.5	▲22.2	▲7.4	▲21.5	▲20.5
小売	▲44.4	▲38.9	▲22.2	▲20.0	▲36.9	▲31.6	▲36.8
サービス	▲43.5	▲34.6	▲19.1	▲9.1	▲11.1	5.3	▲10.5

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・受注環境は公共工事の発注状況から常態を維持しているが、工種により季節的要因による採算性の変動が大きく今夏の一時的な豪雨の影響から採算性は低下の見込み。（総合工事） ・当社の工事受注量は、戸建てを中心に住宅新築価格の高騰が継続しており、さらに原油高に起因した物価の上昇が利益悪化に拍車を掛け始めている。これらを解決するためしっかりと政府の物価高騰対策(需給ギャップを埋める規模の補正予算)をお願いしたいと考える。一方、人材については将来を見据えての対応が必要であると判断し、足元の業績悪化の不安は残るが即戦力(資格保有者)と若い人材の確保を積極的に進めていく。（設備その他） ・上川地方における現場の受注量の減少にともない遠方においての工事にシフトを切りかえるしかなく経費が増えるため、採算性は悪化している。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・これから農産物の収穫を迎え、昨年に比べ人員が数人少ないため加工業務が多忙になり人材確保が課題となる。（食料品） ・原材料の値上げが商品別に続いているが、少しずつ上がったものに対し売上に転嫁しているところ。利益率など四半期で様子を見ようと思う。（印刷・出版） ・原材料の値上がりが見止まらない。販売価格に転嫁しているけど、その分売り上げ数量が減少してきている。（家具・木材） ・仕入れ単価が急上昇し価格転嫁を頼んでいるが良い回答がもらえていない。建築単価が上昇し工事件数が減少。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで輸入を行ってきたロシア産の商材の確保に関連して、ロシア・ウクライナ情勢により先行きに対する心配があるため現在動向を注視している。（飲食料品） ・仕入単価の上昇に伴い販売単価にしっかり転嫁しなければならない。（機械鋼材） ・原油価格は世界経済の失速懸念により下落しているが円安が進んでおり、仕入・販売価格は多少上下するものの現在の水準が続くと思われる。（その他） ・コロナの第7波により先行き不安定。仕入れ原価の上昇により一部売価に転嫁できないものもあり、厳しい状況が続く。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・7月はサマーセールスタートだが、コロナウイルスの影響により店舗に来店するお客様が少ない。インターネットファッションサイトでは1年中セールプライスでの販売を行っており、バーゲンセールのインパクトがなくなった。今後ライフスタイルの変化があり対策を考えなければならない。（衣服身回品） ・コロナの影響が落ち着き人出増加が売上増に繋がってきた。観光客も回復傾向で土産物店販売も順調に伸びてきた。コロナ禍で人員削減したこともあり製造ラインの人員確保が少し厳しい状況。当面課題としては、原材料中心とした価格高騰が商品価格に転嫁できておらず、今後利益計上に不安。工場設備等の老朽化で機械等の更新が必要なものがあるが、コロナ禍で業況が安定しない中で設備が難しく何とか修繕等で凌いでいる。（食料品） ・昨年と比較してコロナ感染者数が減少傾向にあるため旅行者などが増え車の動きが回復してきている。原油価格が高止まりしている一方、国の激変緩和補助が9月末までの為今後の価格対応が難しい。作業用消耗品や電気料金などの支出が上昇しているため従来利益幅が減少しつつある。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が少しずつ増加しリネン類が多く出てきた。（理美容・クリーニング） ・最悪期は脱出したようだがまだまだコロナ前には程遠い。コロナの収束を願うばかり。（ホテル・旅館） ・定年退職者の増加と新入社員の減少により、技術承継及び業務の受注にも影響を及ぼしている。（その他） ・売上はコロナ前に戻りつつあり一安心していたところだが、また増加傾向にあり今後減少するのではないかと心配。（飲食） ・市内外での人の移動は確実に増えてきていることから、コロナ禍厳しい昨年・一昨年よりは好転といえるが、コロナ前との比較をすれば8割程度で疲弊した状況の回復に道のりは長い。コロナによる突然の大幅減収で緊急避難的に行った借入れ資金の返済が始まる時期も近く、現状程度の回復具合では資金繰りで困窮する懸念あり。燃料単価の高止まりも大きな不安材料。（運送） ・乗務員不足について高齢化に伴う退職等により、現在の輸送体制を維持することが困難となり今後、減便・路線再編等運行の効率化を図っていかねばならない状況となっている。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI8.6 ポイント改善、採算 DI0.1 ポイント改善、仕入単価 DI2.2 ポイント悪化、販売単価 DI6.4 ポイント悪化、資金 DI0.8 ポイント悪化、従業員 DI4.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 10.1 ポイント悪化となった。業種別では、設備その他横ばい、総合工事 13 ポイント悪化、建築業 17 ポイントとなった。原材料価格の上昇によるコスト増相当分を販売価格に転嫁できるかが課題。技術職の採用難による人材不足が課題。原価コストの増加による収益性の低下で業況は悪化している。住宅価格の上昇による新築マインドの低下のため来期以降の受注見込みが厳しいとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI2.6 ポイント改善、採算 DI12.6 ポイント悪化、仕入単価 DI19.7 ポイント改善、販売単価 DI3.2 ポイント改善、資金 DI11.4 ポイント改善、従業員 DI6.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 11.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、家具・木材 25 ポイント悪化、食料品 49 ポイント、印刷・出版 40 ポイント、金属窯業他 3 ポイント改善となった。原材料原木、集荷の低迷との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI18.7 ポイント悪化、採算 DI10.7 ポイント悪化、仕入単価 DI6.5 ポイント改善、販売単価 DI9.3 ポイント悪化、資金 DI6.8 ポイント悪化、従業員 DI8.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.1 ポイント悪化となった。業種別では、機械鋼材横ばい、繊維・衣服等 20 ポイント、食料品 18 ポイント、その他 24 ポイント悪化となった。仕入価格の高止まりが続いており、それを販売価格に反映するかが当面の課題。業況的には売上高が減少しているとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI10.6 ポイント悪化、採算 DI10.5 ポイント改善、仕入単価 DI10.5 ポイント悪化、販売単価 DI26.3 ポイント改善、資金 DI5.2 ポイント改善、従業員 DI5.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 14 ポイント悪化、衣料品、自動車横ばい、食料品 40 ポイント改善となった。コロナ第 7 波の不安はあるものの各種イベント、車の動きは例年並みを予想。原油価格も予想しづらい状況が続いている。補助金の動向にも注視しながら極端な上下は無いと思う。引き続き採算販売の徹底が重要であるとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI15.2 ポイント改善、採算 DI10.8 ポイント改善、仕入単価 DI4.4 ポイント改善、販売単価 DI20.7 ポイント改善、資金 DI10.0 ポイント悪化、従業員 DI3.2 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 16.4 ポイント改善となった。業種別では、その他、飲食、整備業横ばい、理美容・クリーニング 200 ポイント、ホテル・旅館 50 ポイント、運送 17 ポイント改善となった。採算悪化の中での職員給与のアップ、パート時給のアップ等経営の中身が苦しくなっているとの声も寄せられている。</p>